

平成21年度 保健室経営の重点活動表

小学校（児童数102人）

【児童・生徒の健康課題】

望ましい生活習慣の確立
早寝・早起き・朝ごはん
むし歯予防

【教育目標】めあてをもってやりぬく子ども

【重点目標】

よりよい生活習慣を身につけようとする
子どもの育成

【養護教諭の児童・生徒への願い】

自分の心身に關心を持ち、自分の健康生活を振り返り、問題意識を持って、よりよい健康生活を送ろうとする子どもになってほしい。

【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価】

	評価項目	評価基準・評価方法	中間達成状況と今後の方策	年度末の達成状況と次年度の方策
成果	自分で決めた就寝時刻・起床時刻を守り、毎日朝食を摂取し、食後の歯みがきを習慣づけることができる。	健康生活の振り返りでよくできた児童が A：80%以上 B：70%以上 C：70%未満 方法：児童・保護者が年2回（7・12月） 振り返りカードに実施		
教育活動	元気大作戦に基づき、強調月間を設定し、実践カード等を活用した保健指導の充実を図る。 <強調月間> 生活習慣：5・7・8・9・12月 むし歯予防：6・9・11月	生活習慣に変化や改善が見られた児童が A：80%以上 B：70%以上 C：70%未満 方法：養護教諭が強調月間後に実践カードの保護者の記録をもとに実施		
運営活動	健康委員会児童や外部講師（学校栄養職員・歯科衛生士等）と連携した指導を実施する。	積極的に活動に取り組めたという児童が A：80%以上 B：70%以上 C：70%未満 方法：養護教諭が活動後にワークシートや実践カード等の記録をもとに実施		
【考察】				

平成21年度 保健室経営の重点活動表

小学校（児童数92人）

<p>【児童・生徒の健康課題】 心身の健康づくりのための生活の仕方について、知識や理解が十分とは言えない。長時間のメディア（テレビやゲーム）との接触により、規則正しい生活習慣の形成や心身の成長に影響が出ている児童が見られる。</p>	<p>【教育目標】 学び合い・助け合い・きたえ合い</p>	<p>【養護教諭の児童・生徒への願い】 「からだ おうえんだん」一人ひとりが自分の体の応援団長 自分の心身の成長や様子に関心をもち、健康づくりの「主人公」となる児童。生活の仕方に気を付けることが健康づくりにつながっていくということが理解できる。 学校・家庭・地域が「子どもの健康づくりの応援団」</p>
<p>【重点目標】 生活習慣を題材とした健康教育の実施（系統性のある指導計画の作成と実施・組織活動の充実） メディア制限を中心とした生活リズムの改善</p>		

【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価】

	評価項目	評価基準・評価方法	中間達成状況と今後の方策	年度末の達成状況と次年度の方策
成果	各学期の健康づくり旬間で「健康につながる生活の仕方について努力することができた」と答える児童が70%以上	A：70%以上 B：50%以上70%未満 C：50%未満 <評価方法> ワークシート <評価時期> 健康づくり旬間終了後、学級にてふり返り実施		
教育活動	生活習慣を題材とした保健教育・食育の学習をT・Tで実施する。（担任・体育担当・栄養職員・養護教諭・保健師など） 歯科・睡眠・朝食・メディア・生活リズムなど	「指導内容がわかった」という児童の割合が A：学級の全児童 B：児童数の3分の2以上 C：3分の2に満たない <評価方法> 授業後ワークシート <評価時期> 授業の最後にふり返り		
運営活動	家庭での取組（健康づくり旬間）生活習慣を題材とした保健教育、食育の学習についての「健康教育実施計画」を学期ごとに提示する。 市・生活リズム改善事業に参加し、親子健康教室を実施する。 学校だより（保健のページ「からだ おうえんだん」）にて、保護者や地域への情報提供や啓発を行う。	「共通理解のもと、計画どおりに実施できた」と答える職員の割合が A：全職員 B：職員の3分の2以上 C：3分の2に満たない <指導実施後のアンケートにて評価> 親子健康教室は「有意義な内容だった」と答える参加者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：70%未満 <実施後アンケート調査にて評価> たよりを見て、「健康づくりについて考えたり話題にしたりする機会があった」と答える保護者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：70%未満 <学期末保護者アンケート調査にて評価>		

【考察】

平成21年度 保健室経営の重点活動表

小学校 (児童・生徒数 185人)

【児童・生徒の健康課題】

学年があがるにつれて、就寝時刻が遅くなる傾向にある。また、曜日により就寝時刻・起床時刻がバラバラである。その理由として、習い事やテレビ視聴、ゲーム遊びなどが考えられる。

【教育目標】

よく学び 心豊かに たくましく

【重点目標】

考えを進んで伝え合う子ども
人の気持ちを考えて行動する子ども
健康づくりにはげむ子ども

【養護教諭の児童・生徒への願い】

- ・心身ともに健康で、楽しく学校生活を送ってほしい。
- ・友だちの長所を認め、仲良くしてほしい。
- ・思いやりを持って多くの人と関わってほしい。

【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価】

	評価項目	評価基準・評価方法	中間達成状況と今後の方策	年度末の達成状況と次年度の方策
成果	生活リズムを整えることの大切さが分かり、生活リズムを整えた生活ができる。	学校評価において評価 「望ましい生活リズムをつくるために取り組んでいる」とする児童・保護者・職員の割合が70%以上 A:児童・保護者・職員全て達成 B:児童・保護者・職員のうち2つが達成 C:児童・保護者・職員のうち1つのみ達成		
教育活動	学年部朝会を利用し、生活リズムについての指導を実施する。 生活リズムを整えよう かぜを予防しよう	指導実施後のアンケートにおいて評価 生活リズムを整えることの大切さが分かり、自分の生活を改善点しようと思った。 A:90%以上 B:70%以上 C:70%未満 生活リズムを整えることが、かぜの予防になることが分かり、生活リズムを整えようと思った。 A:90%以上 B:70%以上 C:70%未満		
運営活動	地域・保護者・学校が組織的に取り組める活動を実施する。 生活リズム改善強調週間の実施(6月・11月) PTA主催の研修会(9月)	カードや事後アンケートから評価 生活リズム改善強調週間は、生活リズムの改善の機会となったとする児童の割合 A:80%以上 B:65%以上 C:65%未満 有意義な活動だったとする保護者の割合 A:80%以上 B:65%以上 C:65%未満		
【考察】				

平成21年度 保健室経営の重点活動表

小学校 (児童数148人)

【教育目標】心豊かに たくましく 伸びゆく子

【児童・生徒の健康課題】

- ・ 基本的な生活習慣が定着していない児童がいる
就寝時刻・・・約8割が22時までに就寝しているが高学年になるほど22時以降に就寝している児童が増加し、6年の4割は22～23時の就寝となっている
- ・ 歯みがき・・・6割が朝、夜の歯磨き習慣が定着している
- ・ 肥満傾向の児童が10.8%で横ばい

【保健室経営の重点目標】

睡眠の大切さを知り、より良い睡眠をめざし、実践できる子を育てる

【目指す子どもの姿】

自分自身の体や健康について関心を持ち、より良い基本的な生活習慣を実践できる子

【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価】

	評価項目	評価基準・評価方法	中間達成状況と今後の方策	年度末の達成状況と次年度の方策
成果	適切な睡眠習慣が身についている児童が増加する	(児童回答)より 6項目についての自己評価が全て肯定または肯定的な評価が増加した児童が A 75%以上 B 50～75%未満 C 50%以下		
教育活動	保健指導で睡眠に関する指導をする。(指導後、すいみんバッチリ週間を実施)	各指導の後、すいみんバッチリ週間で自己のめあてをたて、取り組むことができた児童が A 90%以上 B 75～90%未満 C 75%未満		
運営活動	児童健康委員会で睡眠の大切さを理解し全校児童に伝える方法を考える。	睡眠の大切さを全校に伝える活動後のすいみんバッチリ週間で自己のめあてをたて、取り組むことができた児童が A 90%以上 B 75～90%未満 C 75%未満		
	保健だよりに基本的な生活習慣についての記事や児童への保健指導の内容を載せ、保護者の意識向上を図る。	児童の取り組みカードの保護者のアンケートより A 保護者から睡眠の大切さを知り、子どもの取組について関心を持っている家庭が80%以上 B 70%以上80%未満 C 70%未満		

【考察】

平成21年度 保健室経営の重点活動表

小学校（児童数290人）

【児童・生徒の健康課題】

「早寝・早起きの定着」
 ・午後10時30分までに就寝する児童は、全校で88.5%だった。学年が上がると就寝時刻が遅くなる傾向にあり、6年生で10時30分までに就寝する児童は、67.8%だった。
 ・7時前に起床する児童は、全校で66%だった。学年が上がると起床時刻が遅くなる傾向にあり、6年生では49.2%だった。

【教育目標】

自ら学ぶ子 思いやりのある子
 たくましい子

【重点目標】

自分の生活を見直し、よりよい生活習慣を実践しようとする児童を育てる。

【養護教諭の児童・生徒への願い】

- ・生活習慣について学習することにより、よりよい生活のあり方を知る。
- ・児童が、自らの生活習慣を見直し、問題点に気づく。
- ・習得したよりよい生活のあり方を基に、自らの生活習慣を改善しようとする。

【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価】

	評価項目	評価基準・評価方法	中間達成状況と今後の方策	年度末の達成状況と次年度の方策
成果	児童が、自らよりよい生活習慣を実践しようとする。	2回目の生活チェックで、よりよい生活習慣を実践しようとした児童が、 A：80%以上 B：70%以上 C：70%未満 評価方法：年2回の生活チェックの比較		
教育活動	5、6年生を対象に、生活チェックの結果を活用し、よりよい生活習慣についての学習を行う。	自らの生活習慣を振り返り、よりよい生活習慣について考え、実践しようとした児童が、 A：80%以上 B：70%以上 C：70%未満 評価方法：生活調べカードを利用し、3日間、自分で計画した生活を実践してみる。		
運営活動	生活習慣の改善を重点目標とした学校保健委員会を実施する。	学校保健委員会に参加して、自分の生活を見直そうと思った児童が、 A：90%以上 B：80%以上 C：80%未満 評価方法：児童に対するアンケートの実施		
活動	保健便りに生活チェックの結果を分かりやすく載せ、保護者の理解を図る。	子供によりよい生活習慣を実践させたいと考える保護者が、 A：80%以上 B：70%以上 C：70%未満 評価方法：保護者に対するアンケートの実施		
【考察】				

平成 21 年度保健室経営の重点活動表

小学校（児童数 248 人）

【児童・生徒の健康課題】

就寝時刻が遅い。
朝すっきり起床できない児童や、日頃から
疲れや怠さを感じている児童が多い。

【教育目標】ただしく かしこく たくましく

【重点目標】

規則正しい生活習慣を身につけ、健康的な生活を送ろう。

【養護教諭の児童・生徒への願い】

十分な睡眠時間を確保し、元気に一日、学校生活を送ってほしい。

【組織的に健康教育を推進する具体的な方策と評価】

	評価項目	評価基準・評価方法	中間達成状況と今後の方策	年度末の達成状況と次年度の方策
成果	「早ね、早起き、朝ごはん」のめあてをもち、規則正しい生活リズムを身につける。	元気アップ週間での取り組みで A：達成率 8 割以上の子どもが 6 割以上 B：達成率 8 割以上の子どもが 5 割以上 C：達成率 8 割以上の子どもが 5 割未満		
教育活動	生活習慣（「早ね、早起き、朝ごはん」を中心に）について保健指導する。	元気アップカードの記述から A：前向きに取り組んだ子どもが 8 割以上 B：前向きに取り組んだ子どもが 7 割以上 C：前向きに取り組んだ子どもが 7 割未満		
運営活動	学級担任に、保健指導資料や情報等を提供する。	職員アンケートから A：資料を活用し、指導した担任 7 割以上 B：資料を活用し、指導した担任 6 割以上 C：資料を活用し、指導した担任 6 割未満		
	家庭（保護者）に、生活アンケートの結果や元気アップ週間での取り組み状況、子どもの様子等を知らせる。	保護者アンケートから A：必要性を理解し、家庭でも実践しようとする意識をもつことができた保護者が 8 割以上 B：7 割以上 C：7 割未満		

【考察】